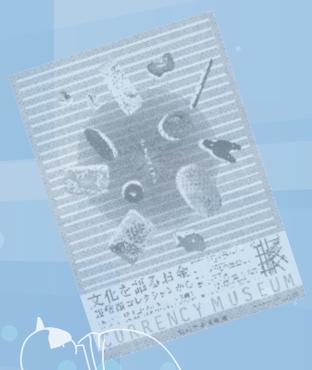


# — シンカし続ける博物館

これまでの道のり



貨幣博物館のコレクションの始まりは1892(明治25)年に遡ります。日本銀行は1944年に貨幣館コレクションを受贈後、1948年に展示を開始しました。

1892年	9月	日本銀行開業初期から資産として買入れ・保管していた古貨幣の一部を「標本貨幣」として保管
1900年	2月	「標本貨幣」に関する規程を定める
1944年	12月	田中啓文氏(貨幣館)から古貨幣等のコレクションを受贈
1947年	5月	GHQによる貴金属の「標本貨幣」接收を一般公開を条件に免れる 「文化財は自らの手で守り、生かすべきである」ことを郡司勇夫氏が力説
1948年	5月	「標本貨幣」を展示開始(本館3階、事前申込)
1957年	12月	「標本貨幣室」移転(3号館地下へ)
1958年		所蔵資料台帳の作成を始める <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">この頃より土屋喬雄・東京大学名誉教授らに貨幣館資料の解説など指導を受ける</span>
1960年	7月	「標本貨幣係」新設 (分散していた事務を一元化、調査局図書資料課内)
1960年	9月	洪沢敬三・元日本銀行総裁 「日銀に金融図書館と貨幣博物館を併設したいとは、日銀に来た時からの所感であった。」(随筆)
1965-1970年		「貨幣館旧蔵目録」作成や古文書解説(山田羽書関係)委託など
1972年	11月	『図録日本の貨幣』発行開始(～1976年、日本銀行調査局編)
1973年	4月	新館竣工に伴い「標本貨幣室」移転・拡大(本館1階東側へ)
1979年		日本銀行100周年(1982年)に向け、展示施設の検討着手 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">「日本銀行の社会還元」「開かれた日本銀行」推進のための事業のひとつ</span>
1982年	5月	新築中の南分館(1984年竣工)に展示施設を作ることを公表(100周年記念事業)
1982年	10月	日本銀行100周年 金融研究所を設置 開館までの暫定展示を1984年末まで本館内で実施
1985年	11月	貨幣博物館開館(5日式典・6日一般公開、南分館へ)

貨幣館主



田中啓文氏

貨幣館資料受贈時の総裁



洪沢敬三日本銀行総裁(第16代)

初期の標本貨幣室



展示ケース兼収納棚



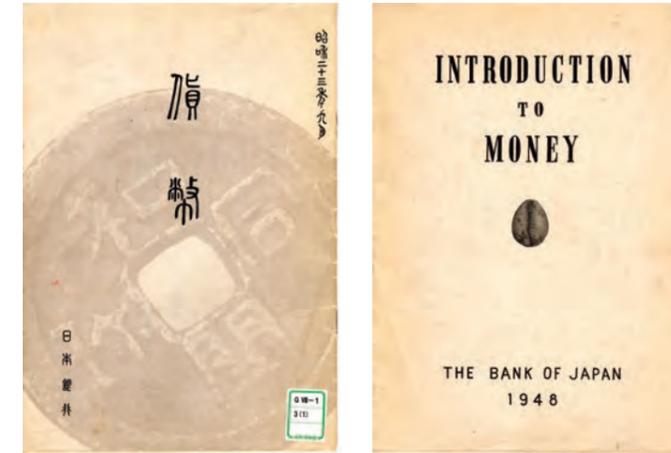
1952年皇太子殿下(当時)、標本貨幣をご見学。郡司勇夫氏案内。

開館までのあゆみ

貨幣館コレクションと貨幣博物館の設立



シンカし続ける博物館 これまでの道のり



標本貨幣室 最初の図版刊行物 小冊子『貨幣』

日本銀行 1948年9月 989254,989255,989256

GHQによる「標本貨幣」接收を免れ(1947年)、展示を開始した年に作成した図版を中心とした小冊子。

構成: 日本貨幣史概説1頁、写真解説2頁、写真12頁、英語解説5頁。

貨幣専門の博物館を望む『貨幣』序文 1948年

最初の標本貨幣室の小冊子『貨幣』序文に以下のような記載がある。  
「本行の標本貨幣室には内外に互る貨幣並に之に関する器物・文献の類が…(中略)…蒐蔵保管されている。…(中略)…之等は連合国司令部の理解ある処置によって永久に保有を許されてゐるのであるが、未だ設備が整はないため一般に公開の運びに至って居らぬことは誠に遺憾とするところである。

我国に於て貨幣専門の博物館乃至は展覧場がないことは経済史研究家の痛恨とするところであり、文化日本として再建せらるべき本邦に之等の貴重な資料の充分活用される日が一日も早く出現することを希望して已まない。此の小冊子は此の機運醸成の一助にもと刊行したもので(後略)」

2番目の小冊子『日本の通貨』 学生向け刊行物

「貨幣標本室」叢書第二編、編纂発行者: 日本銀行文書局長 1949年9月 989259

小冊子『貨幣』作成の翌年に「中等高等学校の社会科の教材」を意識して作成した詳しい解説書。

「日本通貨史の全貌」を、日本の硬貨・紙幣の2編構成で解説。構成: 全21頁、一部貨幣名に番号が付され、前年に発行された『貨幣』と紐付。



書名	著者	発行年	冊数	備考
『貨幣』	日本銀行	1948	1冊	貨幣館資料
『日本の通貨』	日本銀行	1949	2冊	貨幣館資料
『図録日本の貨幣』	日本銀行調査局	1972	1冊	貨幣館資料
『日本銀行の社会還元』	日本銀行	1979	1冊	貨幣館資料
『新築中の南分館(1984年竣工)に展示施設を作ることを公表(100周年記念事業)』	日本銀行	1982	1冊	貨幣館資料

『貨幣館旧蔵文献目録(図書部)』

調査局図書資料課 1965年 989398

旧貨幣館資料のうち「図書」と分類された約1,800冊の分類保管番号、書名、発行年、著者、備考が記された内部用の目録。

『国家金銀銭譜』(1758年)、『金銀図録』(1810年)などから始まる。



小冊子『日本のおかねのはなし』

「おかねのはじまり」から戦後の管理通貨制までを11章立てて写真とともに解説。調査局標本貨幣係時代から作成し、改訂を重ねながら貨幣博物館開館以降も刊行した。

左から 日本銀行調査局 標本貨幣係 編 1961年 989308  
日本銀行調査局 標本貨幣係 編 1965年 989308  
日本銀行金融研究所 標本貨幣係 編 1983年 989308  
日本銀行金融研究所 貨幣博物館 編 1993年 989308

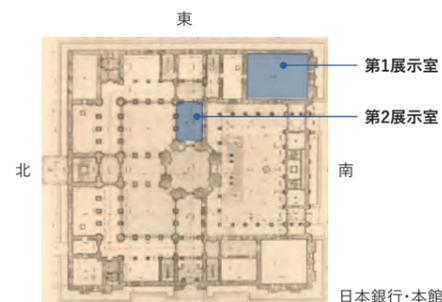
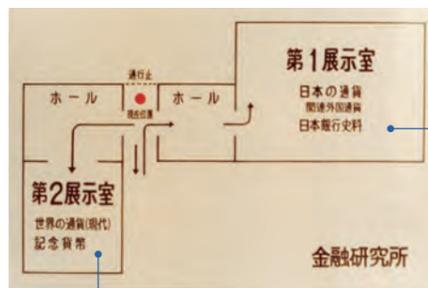
## 標本貨幣室 旧館3号館地下・1957-73年



『図録 日本の貨幣』全11巻  
土屋喬雄・山口和雄 監修  
日本銀行調査局編、1972年-1976年  
日本銀行所蔵の旧銭幣館資料を中心とした全4,316点の日本貨幣のカラー図版と解説を掲載。本文で各時期の貨幣の歴史を詳述。両監修者のほか、銭幣館で貨幣研究にあたり、銭幣館資料の移管と共に日本銀行へ入行した郡司勇夫氏も多く執筆した。



## 標本貨幣室 旧館本館東側1階・1982-84年の展示



## 開館以降のあゆみ 1985-2014

年	月	内容	凡例
1985年	11月	貨幣博物館 開館(予約制、日本銀行休業日は休館)	● 日銀広報 ● 博物館運営 ● 研究・保存 ● 教育普及 ● 展示関係
1987年	9月	図録『日本銀行金融研究所 貨幣博物館』刊行	
1990年	6月	所蔵資料目録『日本銀行所蔵 銭幣館資料目録』刊行	
1994年	10月	予約制廃止、第2・第4日曜日の開館開始	
1995年	12月	展示室・収蔵庫の資料保存環境の整備に着手	
1996年	8月	貨幣博物館ホームページ開設	
1998年	3-5月	第1回企画展開催、以降テーマ展(1999年～)等開催	
1998年	3月	小・中学生向けパンフレット作成	
1998年		所蔵資料の整理作業を開始、資料データベース作成着手	
1999年	4月	土曜・日曜の全面開館を開始(月曜休館) この年より展示解説開始	
2001年		「情報パソコン」を展示室に設置 夏休み子ども向けイベント(質問コーナー)開始	情報パソコン
2002年	9月	日本銀行開業120周年企画展「にちぎん誕生」開催	
2002年	10月	歴史的資料等保有施設として総務大臣指定を受ける	
		古金銀貨を新規収蔵(2003年より順次公開)	
2002-2003年		日本銀行旧小樽支店金融資料館の展示を製作 (2003年5月開館)	
2003年	2月	所蔵資料の撮影・デジタル化に着手	
2004年		常設展示見直しの検討着手	
2007年	5月	古貨幣の重さ体験コーナー開始	古貨幣の重さ体験コーナー
2010年	4月	日本銀行の仕事を紹介するパネル設置	
2013年	10月	リニューアル準備に本格着手	
2014年	9月	米国FRBの美術品プログラムへ錦絵46点を貸出	
2014年	12月末	リニューアル工事のため休館	



来館者数 50万人

分銅金の展示開始、  
改刷展示や日本橋地区  
再開発による来館者増

来館者数 100万人

### リニューアル工事の様子



旧展示の解体中

旧展示の解体後

新展示の床工事・絨毯設置

新展示のウォールパネル検討

# 初代展示室 1985.11-2014.12

日本銀行は、1982年に創立100周年を迎えたことを機に、金融研究所貨幣博物館を設置し、1985年11月に開館しました。

貨幣博物館は「通貨と国民生活との係わり合いなどを示して、国民との接触の場」(金融研究所設立趣旨、前川日本銀行総裁、1982年)とすべく設置されました。

## 展示室全景

重厚感のある赤い絨毯に、常設展示は高さのある展示ケースを中心とした構成。



## 円柱型のケース

各時代を象徴する貨幣の表裏が見えるように展示。



## 日本貨幣史

貨幣発行者の視点を中心とし、「貨幣のもつ意味」「通貨価値安定の重要性」などを考えることを目指した展示。



中世の日本と中国の貨幣流通にみられた共時性など、研究が開館後に大きく進展。

## ウォール型およびのぞき型ケースエリア

海外の貨幣を主とした展示。

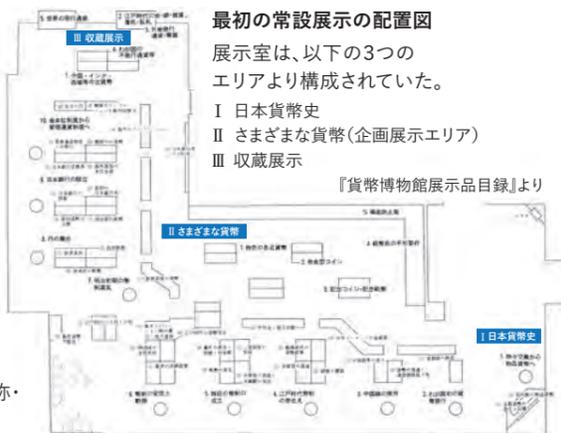


## ビデオコーナー



## 常設展示の資料目録

『貨幣博物館展示品目録』1992年  
展示された約5,500点の資料の名称・年代・個数・備考をまとめたもの。



## 最初の常設展示の配置図

展示室は、以下の3つのエリアより構成されていた。

- I 日本貨幣史
- II ささまざまな貨幣(企画展示エリア)
- III 収蔵展示

『貨幣博物館展示品目録』より



初代展示室のパンフレット類

# シンカする貨幣博物館

1994年、来館時の予約制を廃止し、第2・第4日曜日にも開館することとしました。また、第1回企画展(1998年)を皮切りに、常設展示以外にも、さまざまな所蔵資料をご覧いただく機会が生まれました。



最初の常設展示  
ポスターデザイン  
初版 1994(改訂 2008)年

キッカケ 開館日拡大に伴うPR。

シンカのポイント 1994年 予約制を廃止(除団体)。  
1999年 土・日曜日、全面開館。



## カラー&原寸大にこだわった博物館の図録

『日本銀行金融研究所 貨幣博物館』1987年(初版)、1995年(改訂)

開館から2年後1987年に刊行したカラー写真で構成された図録。日本貨幣史(古代～近現代)および「さまざまな貨幣」として素材や形の特殊な海外の貨幣を取り上げている。資料の画像は、原則として原寸で掲載。

貨幣研究者であった郡司勇夫氏より寄贈された蔵書・資料群には、日本銀行の建物の図柄の切手が貼られ、開館した1985年11月の消印が押印されたパンフレットがある。



## 来館者用パンフレット

館内の見取り図と各時代の代表的な貨幣に関する解説がある。土日開館等の情報を変更する際にデザインが一新された。



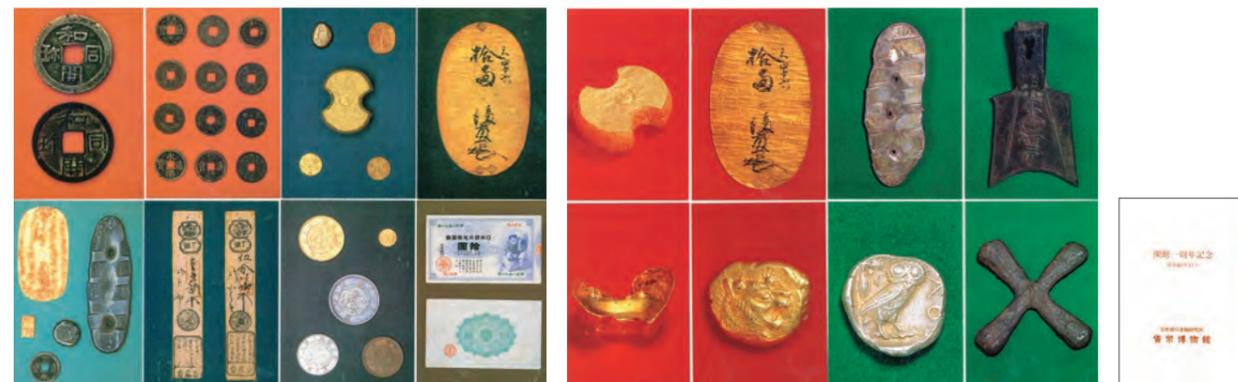
1985年



1998年頃

## 博物館PR用 お金の絵はがき

開館時に配布した記念絵はがき(8種1組)。1周年記念や来館者数5万人記念(1987年)、10万人記念(1990年)の際にも配布。改訂の都度、資料の写真も変更された。



1985年頃(開館記念配布)

1986年頃(開館1周年配布)



第1回企画展

# 文化を語るお金

— 銭幣館コレクションから —

1998年3月22日—1998年5月29日

**キッカケ** 初の企画展開催。

**シンカのポイント** 公開する機会が少なかった資料を選び、常設展示とあわせて「銭幣館コレクション」の全体像を紹介。



『金銀図録』  
近藤守重著 1810年(序)、1823年(初版) 906326,906327

## お金の図鑑と、“貨幣ではない”お金

『金銀図録』(全7冊)は、明和年間(1764～1772年)頃までの日本の金銀貨など約550点が収録された貨幣図録。貨幣としては用いない「玩賞品」なども収められている。



桔梗小判(玩賞品)  
7145



米切手  
金谷蔵(播磨)  
米20俵  
江戸時代  
913702

## お米の代わりに取引された米切手

人々が使用した商取引に関する資料として展示された。各藩は米を売却する際に、米の代わりに米との引替を約束した米切手を発行した。米切手は米市場で取引され、米切手を質に金貸しを行う両替屋もいた。



江戸時代のニセモノ銭 雁首銭  
江戸時代 7179

キセルの雁首部分を平らにつぶし、銭さしに混ぜた。銭幣館では偽造された貨幣も収集していた。



ボヘミア  
16世紀 2611

## ヨーロッパ中で流通したターレル銀貨

16世紀、ボヘミア(当時の神聖ローマ帝国)の峡谷ヨアヒムスタールで銀鉱山が開発された。その良質な銀でつくられたターレル銀貨は、高額貨幣としてヨーロッパ中で流通するようになった。

## 世界に広がるターレル銀貨

アメリカ大陸の“発見”によりメキシコやペルーで銀鉱山が発見され、大量の銀がもたらされるようになると、ターレル銀貨と同じ様式の銀貨は、ヨーロッパからアメリカ大陸やアジアなど世界中に広がった。



メキシコ  
18世紀 6254



日本  
19世紀 1204



第2回企画展

# 金座

— 小判のふるさと —

1999年6月18日—1999年8月31日

**シンカのポイント** 金座の絵図や古文書、金座で使われていた道具などを、金座の役割や貨幣改鋳の意義などととも紹介。



佐渡小判 1714年

佐渡でつくられた小判と極印  
145,951055

佐渡に設置された金座の出張所でつくられた小判と極印。



極印(佐字) 江戸時代



金座が試しにつくったコイン  
江戸時代 1017,1028,1019,1014,1026

金座は、貨幣以外にも試鋳貨や記念貨などをつくった。



金座に入るための通門証 門鑑  
江戸時代 961022,961020

金座の出入りは厳しくチェックされた。

## 銭幣館コレクションの資料目録の刊行

金融研究所は、1990年から『日本銀行所蔵銭幣館資料目録』として①「文書・図書・画像史料」、②「証書類」、③「器具・物品類」を刊行した(全3冊、1990-1992年)。「文書・図書・画像史料」の巻末に収録されている郡司勇夫著「銭幣館コレクション随想」は、田中啓文氏の収集法や、貨幣・紙幣以外の史料収集の困難さにも言及されている。



『日本銀行所蔵銭幣館資料目録』



郡司勇夫氏



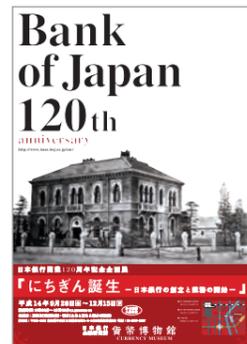
田中啓文氏

郡司氏は、銭幣館コレクションについて、「独壇場的なものは中国古代の錢範類(鑄型)」があり、「江戸時代古紙幣の印刷版(版木類)が桁外れ」に多く、「文書・図書」に希少なものがあり、「金座や銭座の座人の書留、山田羽書関連資料、金座等の絵図面などが光っている」と述べている。

# 日本銀行の博物館として

貨幣博物館は、日本銀行の広報活動の一端を担い、日本銀行開業120周年や新しい日本銀行券の発行(改刷)の際に企画展を開催してきました。

2004年・2024年の改刷の展示では、偽造防止技術の礎ともいえる、江戸時代の紙幣の製造技術にまつわる資料も紹介しました。



第5回企画展

## にちぎん誕生 —日本銀行の創立と業務の開始—

2002年9月28日—2002年12月15日

**キッカケ** 日本銀行開業120周年。

**シンカのポイント** 開業に至る経緯と開業時の役割を日本銀行アーカイブと貨幣博物館の資料を通して紹介。



展示室入口



紙幣価値の下落を風刺した錦絵

「欲の戯ちから競」  
児玉又七 1880-90年頃 900566



日本銀行開業

「永代橋際日本銀行の雪」  
井上安治 1880年代 900055



日本銀行券「兌換銀券」の発行

「大黒札」旧十円券  
1885年 500777



第3回企画展

## 2のつくお金展

2000年5月12日—2000年9月3日

**キッカケ** 2000年の日本銀行券二千円券の発行。

**シンカのポイント** 二千円券の発行にちなみ、日本および海外の2のつく紙幣や貨幣を展示。



150年以上前のアメリカの2のつくお金

アメリカ連邦(南軍)政府紙幣 20ドル券  
アメリカ 1864年 501417



ミレニアム記念貨幣セット  
カナダ 2000年 4708  
12種類の異なる銘をもつ  
25セントが収められたセット。

ミレニアム記念のお金



ミレニアム記念 100シリング  
オーストリア 2000年 4619



第6回企画展

## あたらしい 日本銀行券

—最新技術ココにあり!—

2004年9月11日—2005年1月16日



第10回特別展

## 新しい 日本銀行券 2024

—匠の技とデザイン—

2023年11月2日—2024年9月8日

**キッカケ** 2004年、2024年の新紙幣発行(改刷)の広報。

**シンカのポイント** 新デザインと最新の偽造防止技術を紹介。各メディアに対して広報を強化。博物館の知名度向上と来館者増加にも大きく寄与。

さまざまなハンコで偽造を防ぐ藩札

江戸時代のお札の印刷は、細かい紋様の印形(ハンコ)や版木を組み合わせており、インキの色も工夫していた。足守藩札には、当館所蔵の印形と同じものが押印されている。



「郡中請」  
952293

備中国足守藩札一文目  
506678

「本大津寄」「東大津寄」  
952292, 952294

藩札用紙入箱  
1863年9月 953662

「銀見極」  
952288

筑後国柳川藩札  
江戸時代 507969

北里柴三郎に  
まつわるお金

肖像に選ばれた人物にまつわるお金として、北里の故郷である熊本で発行された藩札や、1886年ドイツへ留学した時期に使われていた紙幣を紹介した。

肥後国熊本藩札 銭十匁  
1832年 508549  
裏面に「北里」と記されている。



帝国金庫証券5マルクドイツ 1882年 503053  
北里は1875年に熊本を離れ、東京医学校に入学し、その後ドイツへ留学した。

# “新化”に向けて

貨幣博物館では2004年頃より、研究の進展、来館者ニーズの変化、設備の老朽化などの状況を踏まえ、リニューアルの検討に着手しました。展示内容面では研究の最新動向を踏まえ、順次企画展を開催し、新・常設展示の準備を進めました。

## 常設展示へ



第9回企画展

### 貨幣誕生

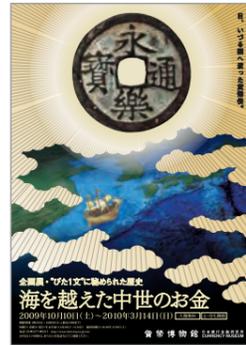
—和同開珎の時代とくらし—

2007年12月8日—2008年3月9日

**キッカケ** 和同開珎発行(708年)より1300年。

**シンカのポイント** 「富本銭」が和同開珎より遡る7世紀後半に鑄造されたことなど、最新の研究成果を紹介。継続的な企画展図録の作成開始。

**リニューアルに向けて展示のポイント** 律令国家の象徴として発行された古代の貨幣が、どのようにしてつくられていたのか、なぜ10世紀に発行が途絶えたのかなど、日本の金属貨幣の誕生とその変遷について最新の研究成果を踏まえて紹介。



第10回企画展

### 海を越えた中世のお金

—“びた1文”に秘められた歴史—

2009年10月10日—2010年3月14日

**リニューアルに向けて展示のポイント** 中世の日本でなぜ中国の銭貨が大量に流入し、どのように浸透していったのか、後に“びた銭”とよばれる粗悪な銭貨がどのような影響を及ぼしたのか、さらに、石見銀山など戦国大名の鉱山開発によって登場した石州銀や甲州金といった金銀貨を含め、中世の貨幣流通の変遷について最新の研究成果を踏まえて紹介。



第11回企画展

### 貨幣・天下統一

—一家康がつくったお金のしくみ—

2011年2月19日—2011年11月6日

**リニューアルに向けて展示のポイント** 17世紀前半に江戸幕府が三貨制度の枠組みを固めていく過程を、戦国大名の政策継承や貨幣の製造体制整備などの面から、最新の研究成果を踏まえて紹介。また、江戸時代初期に日本の金・銀・銭が海外へ大量に流出した実態と、幕府の貿易・外交政策上の対応についても紹介。

## 銭幣館コレクションの活用を目指したトピック展示創設へ



第12回企画展

### おかね道中記 —旅で使う貨幣—

2012年11月10日—2013年5月12日

**キッカケ** 現金払いの「旅」からお金の使われ方を整理。

**シンカのポイント** 貨幣と旅に関する古文書・絵画などから、古代～近代の旅での貨幣の使用実態を紹介。

### 最新の貨幣史研究の成果『貨幣の歴史学』

歴史学・考古学・経済学・自然科学など幅広い分野の研究者が最新の日本貨幣史を日本銀行広報誌『にちぎん』(9～20号、2007～2009年<全12回>)で連載した。貨幣博物館は最新の研究動向や研究者の紹介、画像提供などで協力した。



貨幣の歴史学  
(広報誌「にちぎん」連載)

連載をまとめた小冊子『貨幣の歴史学』(桜井英治氏監修、日本銀行情報サービス局発行、2011年)



### 『貨幣の地域史』(鈴木公雄編『貨幣の地域史』岩波書店、2007年)の刊行

貨幣博物館がコーディネートしてきた貨幣史研究会(東日本部会、代表：鈴木公雄氏)での共同研究の成果に基づき、第一線の研究者たちが同一のテーマで取り組んだ論文集。

【テーマ】地域毎にばらばらであった日本中世の貨幣流通が、どのようにして江戸・寛永期に統合されるに至ったのか、そのプロセスを解明する。



# リニューアル以降のあゆみ 2015-2025

年	月	内容	凡例
2015年	11月	リニューアルオープン	● 日銀広報
2016年		文化財IPM活動(資料保存)本格化	● 博物館運営
2016年	4月	学校向けプログラム開始	● 研究・保存
2016年	6月	計画的な資料修復に着手	● 教育普及
2016年	7月	夏休みこども向けプログラム開始 こども向け展示解説など	● 展示関係
2017年	1月	広報動画「日本銀行貨幣博物館へようこそ」をYouTubeに掲載	
2017年	3月	テーマ展「春爛漫!桜咲く錦絵」開催初回 <b>地域連携</b>	
2017年	3月	『貨幣博物館 常設展示図録』発行 『常設展示リニューアルの記録』発行	
2017年	8月	教員向けレクチャー実施初回	
2019年		特別展「辰野金吾と日本銀行」開催 <b>他館連携</b> 日本銀行本店見学のリニューアル展示を製作	
2019年	10月	常設展示音声ガイド開始	
2020年	2-6月	新型コロナウイルス感染症流行にともなう臨時休館 (体験展示完全再開は2023年5月)	
2020年	6月	HP「おうちミュージアム」コンテンツ公開 <b>他館連携</b>	
2022年	1月	大学入学共通テスト「日本史B」に「貨幣の歴史」の学習で博物館を往訪、 という設定の貨幣史に関する問題が出題	
2022年	9月	にちぎん140周年企画展 「水辺の風景と日本銀行」開催 <b>地域連携</b>	
2022年	11月	中央区まるごとミュージアムへ参加初回 <b>地域連携</b>	
2023年	11月	特別展「新しい日本銀行券2024」開催	来館者数 200万人
2025年	3月	所蔵藩札類の全画像を撮影の上、HPにて公開 (2018年より着手)	
2025年	11月	開館40周年・リニューアル10周年	

## 教育普及プログラムの様子



学校向けプログラム



夏休みこども向けプログラム



# “新化”リニューアルオープン

貨幣博物館開館後30年間の遺跡発掘の動向や研究の進展を踏まえ、展示の内容を大きく更新し、設備も含めてリニューアルしました。

## 常設展リニューアルオープン 2015.11-



**シンカのポイント** 日本貨幣史の学界のスタンダードを示す博物館として、更新しやすい“シンカ”し続けられる常設展示に。

**ユニバーサル・デザインの視点**

- どなたにも見やすい展示ケース
- 色覚のバリアフリー<時代の配色>
- 誰でもトイレやエレベーターの新設

**親しみやすくわかりやすく どなたにも楽しんでいただける仕組みを導入**

- 時代毎の体験展示
- 伝わるデザイン
- レクチャールームの新設

**資料保存に配慮した展示環境**

**ポスターデザイン秘話**  
鯛と炭は、日本古来からの海・山の幸であり、それらに銭(和同開珎)を置くことで、古来よりモノとモノを交換するための仲立ちとしてお金が使われてきたことをイメージしたものだ。

リニューアル記念 絵はがき 2015年11月

リニューアルオープンについて 常設展示の概要

## 配布物などの内容・デザインを一新

館内で配布しているパンフレットや常設展示図録などもリニューアルでの展示内容更新に合わせ、内容・デザインを一新した。

常設展示図録

音声ガイド ※スマホ・タブレット専用

常設展示図録 2017年3月

館内配布物 2015年

まだ来たことのない方へアピール 2017年  
ミニチラシ5種類を作成し、近隣の観光案内所等で配布している。パスポートを模した形状で、枠内に来館記念スタンプを押すことができる。

## お金の歴史についての学びをサポート

### ホームページ

貨幣博物館に来館して、また自宅や学校で、お金の歴史について学ぶ皆さんをサポートするべく、学校団体へのご案内やさまざまな学習ツールをHPに掲載している。

ホームページ (2022年リニューアル)

「カヘイハクでまなぶ」ページ

「おうちミュージアム」ページ

学習ツール

学校の先生へ

中学・高校生向け学習シート 2018年

お金のかたちの写し取り方動画

## 夏休み子ども向けプログラム -2016年より-

小学生をメインターゲットに、夏休み期間にお金について楽しく学ぶイベントを開催。小学校低学年向け展示解説のほか、親子で楽しめるテーマ展や拓本体験のイベントを開催。

小学生低学年向けクイズシート「クイズお金タイムトラベル」 2016年(期間限定配布)

ワークショップのアイテム 「和と日本をつくってみよう!—お金の図鑑づくり—」 和綴じ本・冊子・拓本・タンポ 2017年

幅広い来館者の方にお金の歴史を楽しく学び、身近に感じてもらうため、夏休みを中心にさまざまな企画を行っている。

夏休み子ども向けプログラム

夏休みテーマ展のチラシ 左から 2017、2018、2020、2021、2023、2024年

## コロナ禍の対応 -2020年-

### コロナ禍のお知らせ -ホームページ-

コロナ禍の感染状況に応じてホームページ上で対応を告知。

2020年2月 新型コロナウイルス感染症の拡大

2020年5月25日 緊急事態宣言の全面解除、開館へ

マスク、消毒、体験展示の中止...など

休館を延長し...

休館中の館前表示

お知らせ

### コロナ禍の展示室 -再開と対策-

コロナ禍では触れる体験展示をパネル化して展示

展示物に触れられなくても見てクイズを楽しむ

感染症対策のピクトグラム

- 1階受付のパーティション導入
- 2階受付に手指消毒液を設置
- 体験展示の中止

1階玄関の看板

# “進化”し続ける貨幣博物館

貨幣博物館は社会的要請にも応える“進化”を続け、地域社会との連携や教育普及事業などに取り組んでいます。

## 他館連携



辰野金吾と  
日本銀行



3館連携企画のチラシ



東京ステーションギャラリーとの  
連携シンポジウム  
「辰野金吾と東京駅・日本銀行建築」  
2019年11月3日



辰野金吾が実際に使用したスタ  
ンプがモチーフ。この企画展示で  
三館共通のロゴとして活用。

### 第9回特別展

## 「辰野金吾と日本銀行 —日本近代建築のバイオニア—」

2019年9月21日—2019年12月8日

**キッカケ**▶▶▶ 日本近代建築の礎を築いた辰野金吾没後100年。

**シンカのポイント**▶▶▶ 辰野金吾建築のミュージアムとの連携企画。日本銀行本店見学の展示リニューアルに継承。



日本銀行本館模型は本店見学の展示へ

### 日本銀行本店見学コース展示製作過程

特別展「辰野金吾と日本銀行」と並行し準備を進めた。



パネルサイズ等の検証



ジオラマ製作検証

## 地域連携



### 第16回企画展

## 「水辺の風景と日本銀行 —日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ—」

2022年9月16日—2022年12月4日

**キッカケ**▶▶▶ 日本銀行開業140周年。  
**シンカのポイント**▶▶▶ 明治初期の貨幣・金融制度設計の試行錯誤を、日本銀行を含む日本橋川周辺の金融機関を通して紹介。



水辺の風景と  
日本銀行



902519



「改正東京全図」  
日本橋周辺  
ポイント解説付の公開

高精度  
画像



「中央区まるごとミュージアム」のイベントとして、企画展示のギャラリートーク等を実施(2022年より)

## 地域連携 テーマ展 春爛漫!桜咲く錦絵の開催 —2017年より—

### 日本橋周辺の桜を描いた錦絵の展示 —ポスター・チラシ—



左から 2017、2018、2019、2022、2023、  
2024、2025年

春爛漫!  
桜咲く錦絵  
2024



江戸桜通り  
貨幣博物館の前の通りは、2005年に江  
戸桜通りと命名された。  
日本銀行本店本館を背景に桜並木を見  
ることができる。